
REDISuite

Web型BMS

◆オートパイロットツール設定マニュアル◆

Ver1.03

株式会社 日立システムズ

<変更履歴>

バージョン	変更内容	変更年月
Ver1.00	新規作成	2009年9月
Ver1.01	社名変更	2010年10月
Ver1.02	システム動作環境見直し、全面的に記載を刷新	2014年12月
Ver1.03	動作環境変更に伴う修正	2022年5月

◇◇◇目次◇◇◇

1. はじめに	1
2. 端末設定の流れ	2
3. 事前の準備	3
3-1 用意していただくもの	
4. クライアントツールインストール	4
4-1 クライアントツールインストーラのダウンロード	
4-2 クライアントツールのインストール	
5. クライアントツール初期設定	8
5-1 クライアント証明書のエクスポート	
5-2 クライアントツール初期設定	
5-3 システム情報登録	
6. オートパイロット設定	17
6-1 自動送受信スケジュールの設定	
6-2 受信スケジュール設定	
6-3 送信スケジュール設定	
7. パイロット起動・停止	24
7-1 画面からの起動・停止	
7-2 コマンドでの起動・停止	
補足1. ネットワーク補足設定	26
補足2. システム情報補足設定	27
補足3. 送受信の臨時実行について	28
補足4. コマンドでの送受信	29

<1. はじめに>

このたびは「REDISuite/Web型BMS」をご利用いただきありがとうございます。

本マニュアルは、利用形態が「データ型」をご利用のユーザー様を対象としております。

各画面の機能、操作内容についてご説明しておりますが、本書に記載しております画面表示内容、帳票表示内容は実際にご利用いただくものとは異なります。あらかじめご了承をお願い致します。

実際の画面表示内容や帳票印字内容は、ユーザー様からの改善要望などにより予期なく変更となる場合がございます。

※REDISutie/Web型BMSは、本マニュアルでは以後「REDISuite」と表記いたします。

【1-1 本システムの動作環境】

オペレーティングシステム (OS)	Windows10 Windows11	※ 1
ブラウザ	Microsoft Edge Microsoft Edge (IE互換) Google Chrome	※ 2
メモリ	1GB以上推奨	
ハードディスク	100 MB以上のハード ディスク空き容量	
その他	インターネット接続(フ'ロート'ハ'ント'回線)環境にて HTTPS通信が可能なこと	※ 3
必要ソフト	Microsoft Excel2000以降 Microsoft .NET Framework Adobe Reader 7.0 以上 上記がインストール可能である事	※ 4

- ※ 1 : モダンUI版は対象外です。デスクトップ画面から起動してください。
ワクチンソフトによる定期自動ウィルススキャンにより、システムで利用するファイルにロックがかかってしまう場合、システムが異常終了する場合がございます。
その場合は、自動スキャンを停止いただくか、コマンド実行でご利用ください。
ツールの実行にはWindowsにログインしていただく必要があります。
未ログインでは動作しませんのでご注意ください。
- ※ 2 : ・「JavaScript有効」「ポップアップブロック解除」「ファイルのダウンロード有効」を有効にしてください。
 ・各種ツールバーはサポート対象外となるため、インストールしないで下さい。画面表示が見づらくなる可能性があります、またサポート対象外となります。
 ・Windows Vistaより追加されたフォントは本システムへ入力できません。入力する際に変換候補の横に「環境依存文字 (unicode)」と表示される文字は入力できませんのでご注意下さい。
 ・メニューの[表示] - [エンコード] - [自動選択] を有効にしてください。
- ※ 3 : ご利用プロバイダの制限はありません。
- ※ 4 : 動作確認済みのバージョンは以下となります。
 Microsoft .NET Framework 2.0 ~ Microsoft .NET Framework 3.5
 上記バージョンがインストールされていない場合、Microsoft .NET Framework 3.5をインストールしてください。

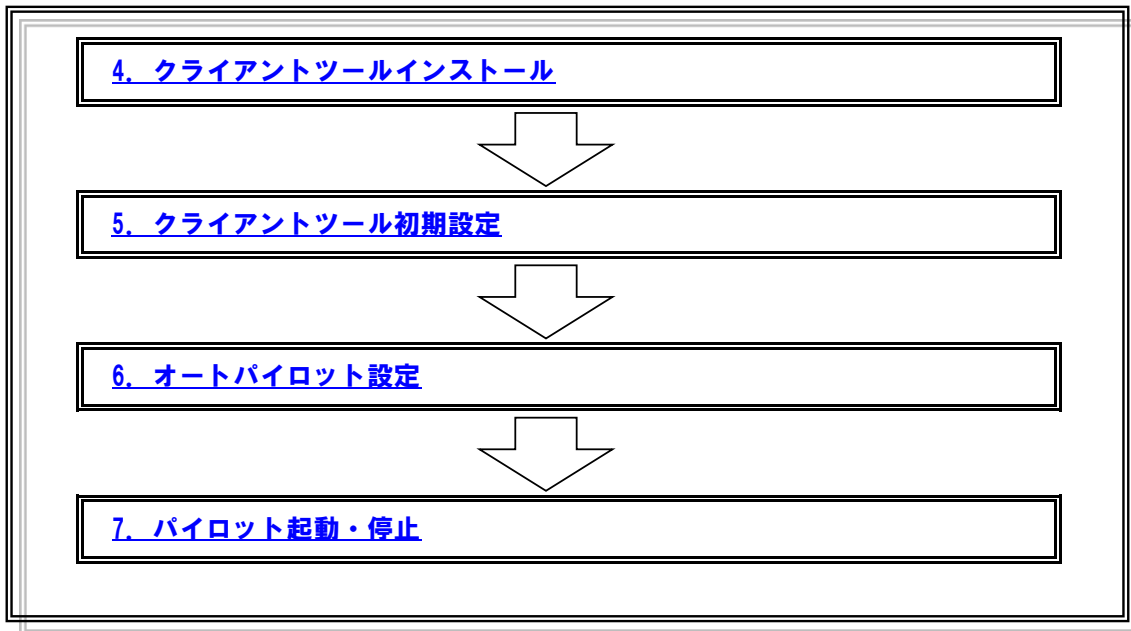
<2. 端末設定の流れ>
 【2-1 処理フロー】

初期手続きが完了後、下記の流れを参考にクライアントPCの設定作業をお願いします。

導入マニュアル

マニュアルに従い、REDISuiteにログインできることを確認してください。

オートパイロットツール設定マニュアル



利用開始

- 補足1. ネットワーク補足設定
- 補足2. システム情報補足設定
- 補足3. 送受信の臨時実行について
- 補足4. コマンドでの送受信

<3. 事前の準備>

【3-1 用意していただくもの】

「導入マニュアル」

初期手続きについて説明したものです。
本サービスを開始するにあたっての、注意点・必要な手続き等を説明しています。

※本システムをはじめて利用する方は必ずお読みください。

本マニュアルの設定を行う前に、必ず導入マニュアルに従い、事前準備を行ってください。
なお、本マニュアルでは導入マニュアルに記載しております、基本的な画面操作方法については省略して記載しております。
システムへのログイン方法や、画面操作方法が分からない場合はお手数ですが、導入マニュアルを再度ご確認くださいませよう宜しくお願いいたします。

「登録通知書」

システムのログインユーザIDやパスワードが記載されております。
クライアントツール設定に必要となります。

※登録通知書の例（実際の通知書と多少イメージが異なる場合がございます）

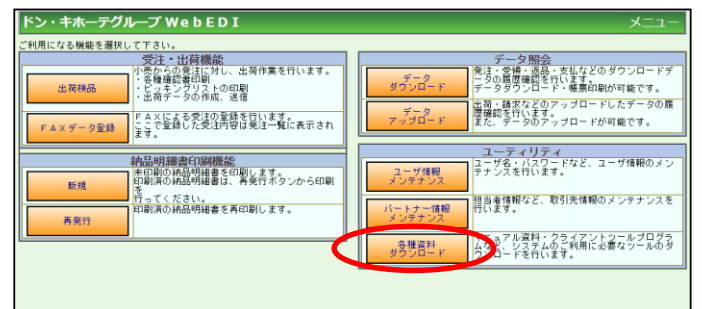
REDISuite/Web型BMS 登録通知書			
2014年6月2日			
※本通知書内記載のID・パスワードは、大文字・小文字を随所数しますので、ご注意ください。 なお、パスワードに0（オー）、1（エル）は使用していません。			
1. お客様情報			
[会社名]			
株式会社 サンプル			
[宛先（代表取引先コード）]	[取引先コード]		
01234500	012345		
[ご利用データ種]		[補足]	
発注	<input type="radio"/>		
出荷	<input type="radio"/>	出荷伝票タイプ	
受領	<input type="radio"/>		
返品	—		
請求	—		
支払	—		
※「—」のデータはご利用いただけません。			
2. ユーザ登録通知書			
(1) 証明書発行情報			
[証明書発行URL]			
https://cert.fwd.ne.jp			
[証明書ID]	[証明書パスワード]		
HWEED12345678	HHdmy001		
(2) REDISuite/Web型BMSシステム			
(1) Webユーザ情報			
[REDISuite/Web型BMSシステムURL]			
https://www.webedi-his.com/			
[ユーザID]	[パスワード]	[利用形態]	
DM10123450001	99aaBHD7	データ型	
(2) クライアントツール用ユーザ情報			
[クライアントID]	[クライアントパスワード]		
CT12345678	Z812aa78		
※「—」の場合はご利用いただけません。			

<4. クライアントツールインストール>
 [4-1 クライアントツールインストーラのダウンロード]

(1) REDISuiteへログインします。



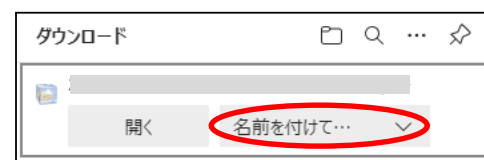
(2) 「ダウンロード」ボタンをクリックします。



(3) 「クライアントツールインストールパッケージ」をダウンロードします。



(4) ファイルのダウンロード
 ダイアログが表示されますので、
 「名前をつけて保存」をクリックします。



デスクトップなど、任意の場所に保存してください。

(5) REDISuiteからログアウトします。
「ログアウト」をクリックします。



(6) 「はい」をクリックします。



【4-2 クライアントツールのインストール】

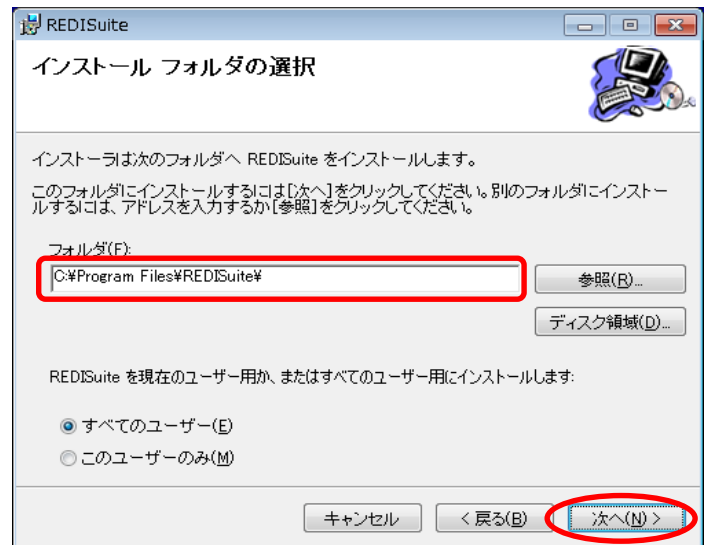
(1) インストーラを起動します。



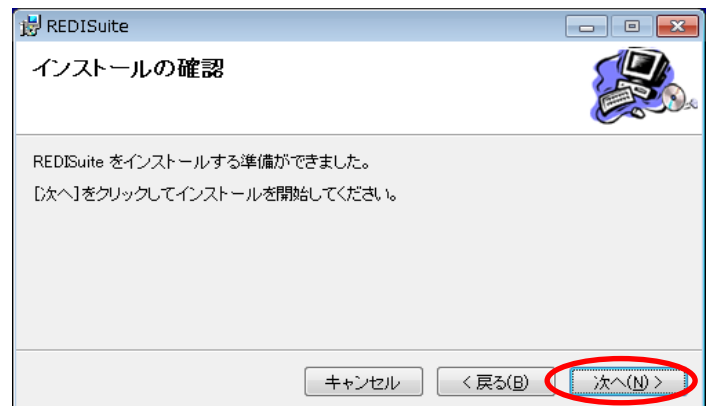
(2) 「次へ」をクリックします。



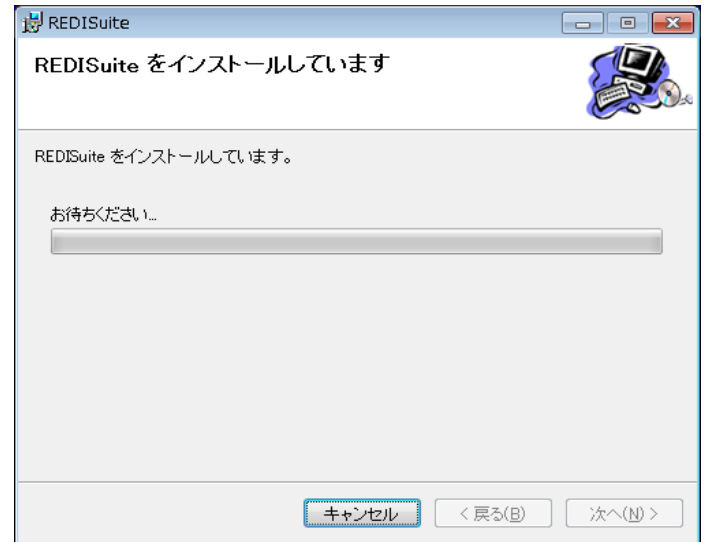
(3) フォルダはそのまま変更せずに「次へ」をクリックします。



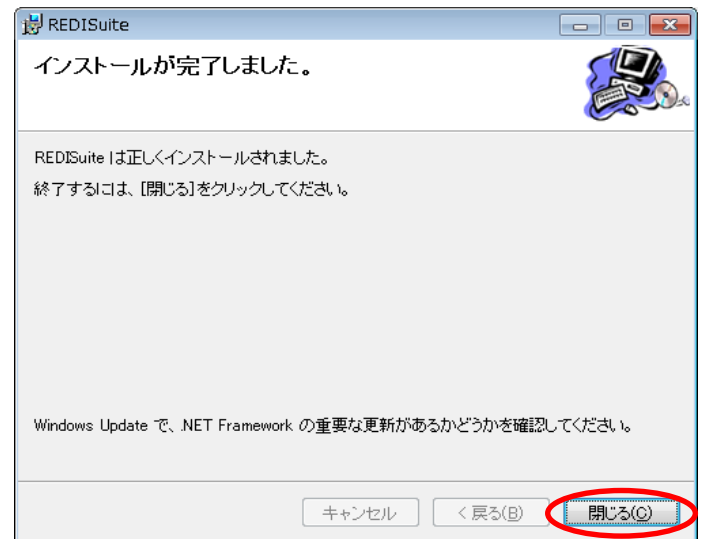
(4) 「次へ」をクリックします。



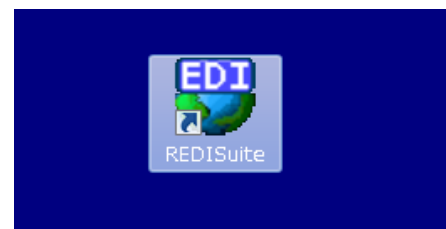
- (5) インストールが始まります。
 しばらくこのままお待ち下さい。
 インストールは1分程度で完了します。



- (6) インストールが完了しました。と表示されます。
 「閉じる」をクリックします。



- (7) デスクトップに「REDISuite」アイコンが
 作成されます。



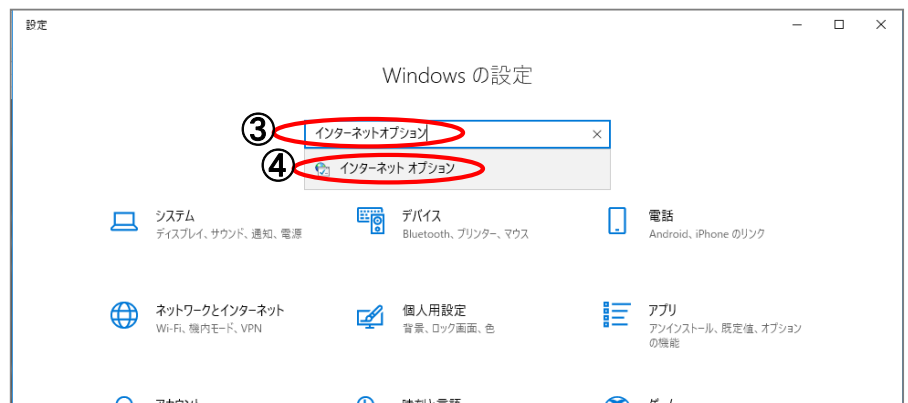
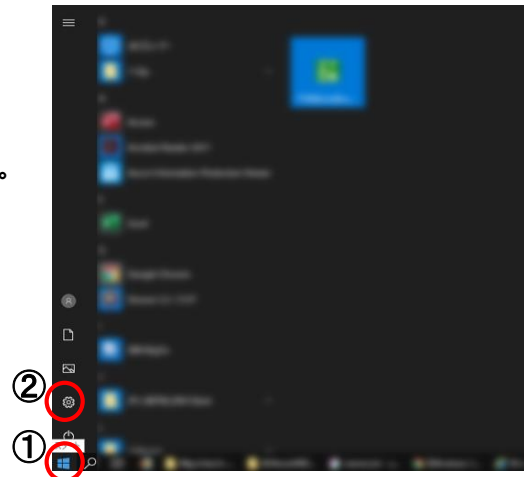
<5. クライアントツール初期設定>

クライアントツールをご利用になるにあたり、お客様の利用環境に合わせた設定を行っていただきます。IDとパスワードの入力により、基本情報を自動的に登録いたします。初回導入時またはご利用PCが変更になった際に一度だけ設定いただく作業であり、通常のご利用の際に毎回設定する必要はありません。

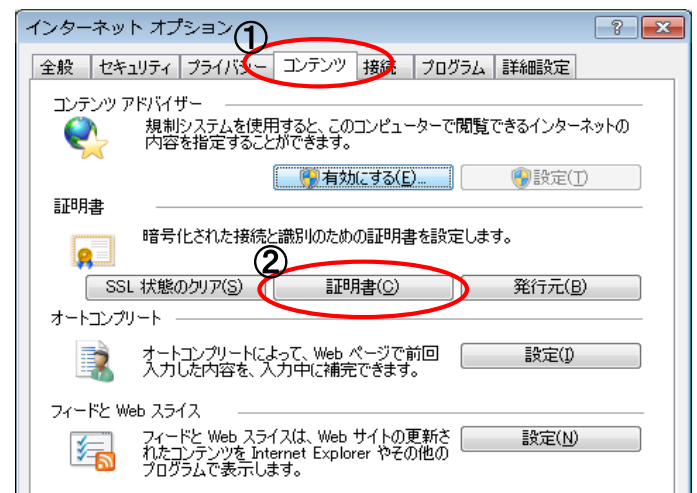
【5-1 クライアント証明書のエクスポート】

(1) 「インターネットオプション」を表示します。

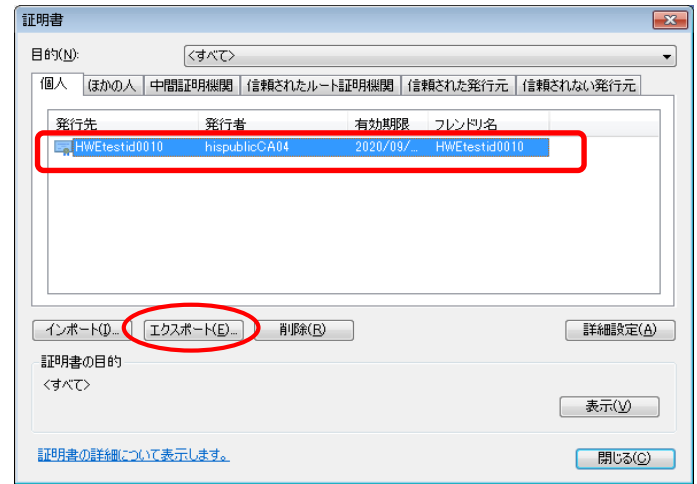
- ① [スタート] をクリックします。
- ② [設定] をクリックします。
- ③ Windows の設定の検索窓に「インターネットオプション」と入力します。
- ④ [インターネットオプション] をクリックします。



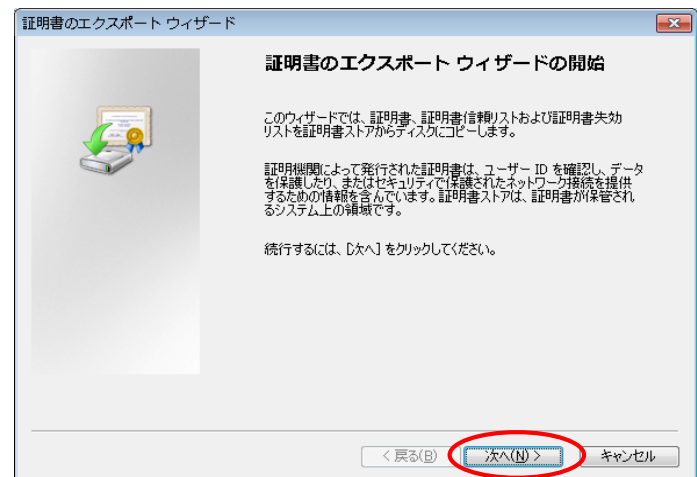
(2) 「コンテンツ」→「証明書」の順にクリックします。



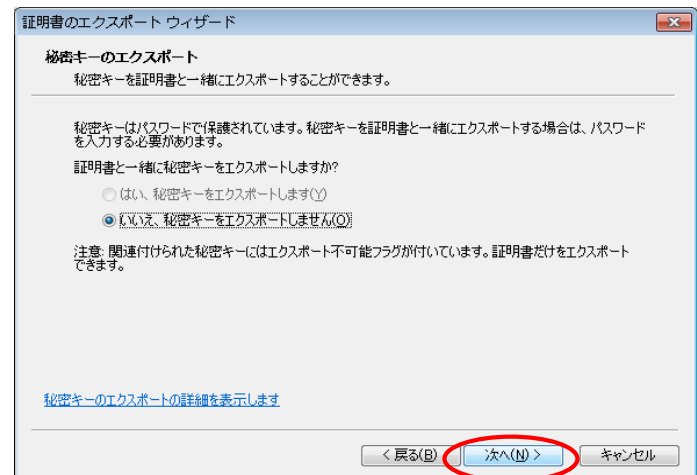
(3) HWE~で始まる証明書を選択し、「エクスポート」をクリックします。



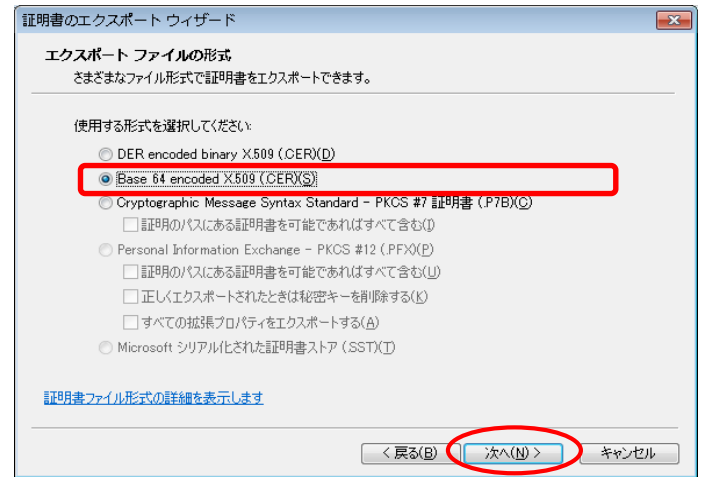
(4) 「次へ」をクリックします。



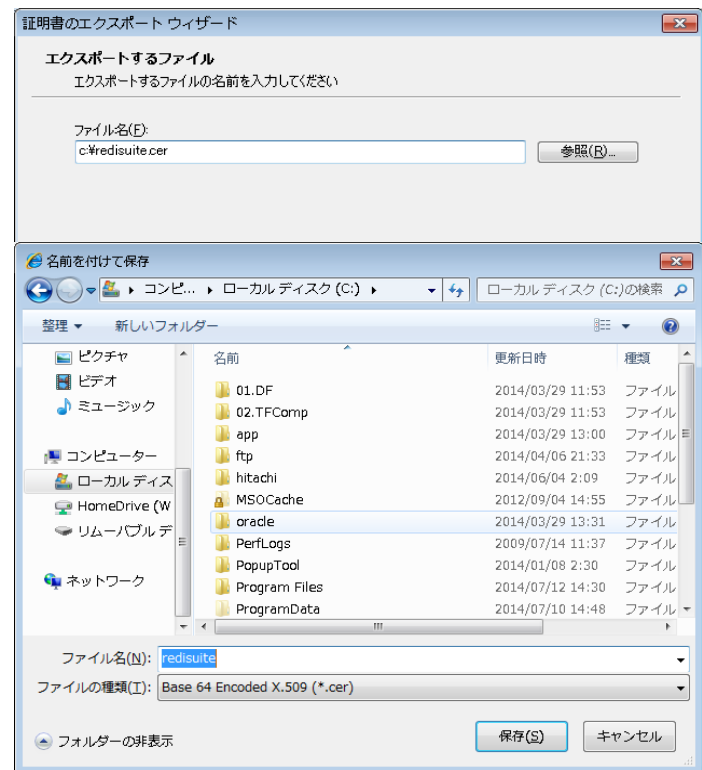
(5) 「次へ」をクリックします。



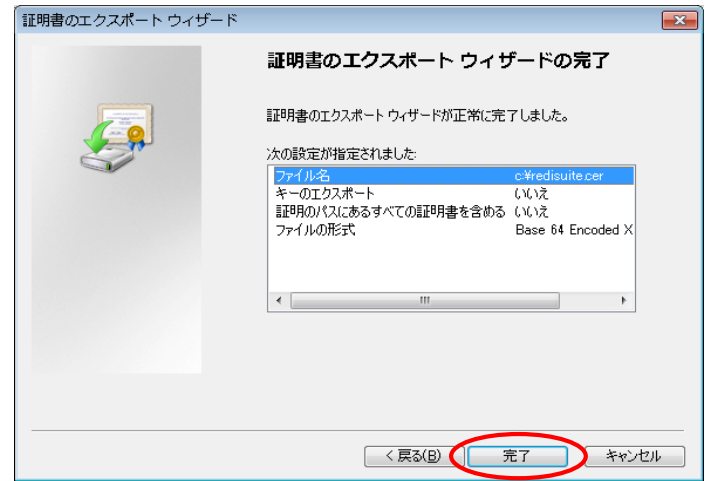
(6) 「Base 64 encoded X509 (CER)」を選択し「次へ」をクリックします。



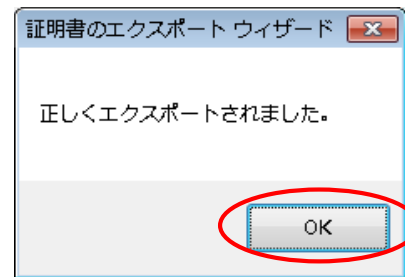
(7) Cドライブに「redisuite.cer」というファイル名で保存します。



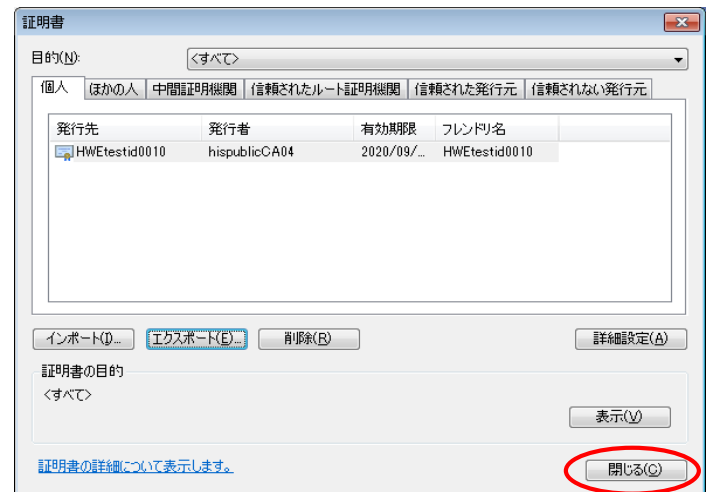
(8) 「完了」をクリックします。



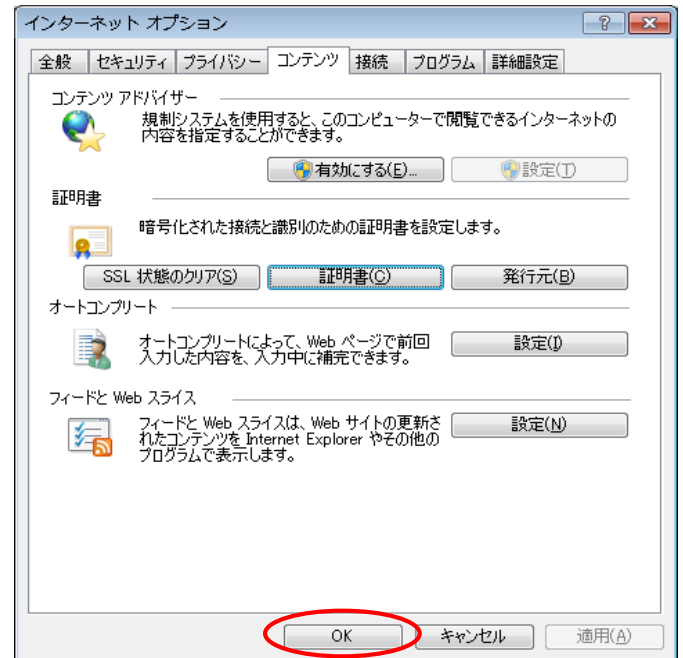
(9) 「OK」をクリックします。



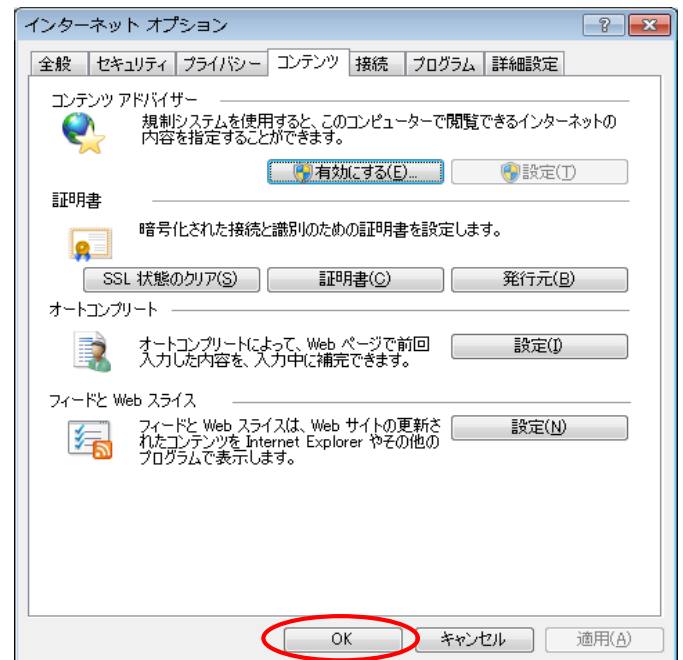
(9) 「閉じる」をクリックします。



(10) 「OK」をクリックします。



(11) 「OK」をクリックします。



【5-2 クライアントツール初期設定】

(1) デスクトップの「REDISuite」アイコンをクリックします。



(2) 起動中画面が表示されますのでしばらくお待ちください。

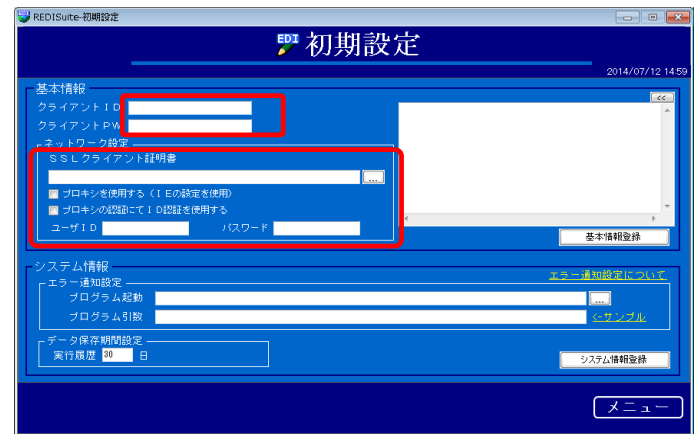


(3) 「初期設定」をクリックします。



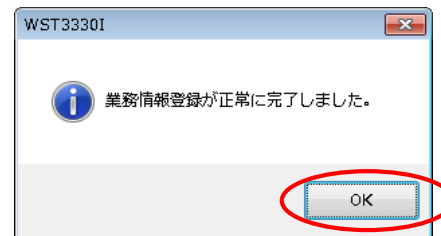
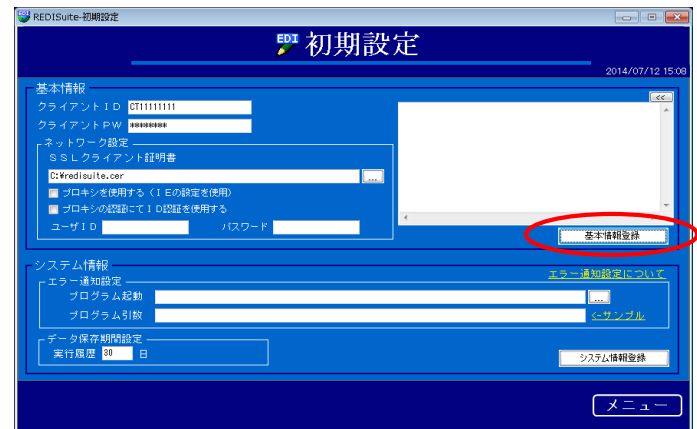
(4) ID情報を入力します。

- ①クライアントID
登録通知書に記載されている「クライアントID」を入力します。
- ②クライアントPW
登録通知書に記載されている「クライアントパスワード」を入力します。
- ③SSLクライアント証明書
「C:\¥redisuite.cer」
※【5-1 クライアント証明書のエクスポート】で保存した証明書を指定します。



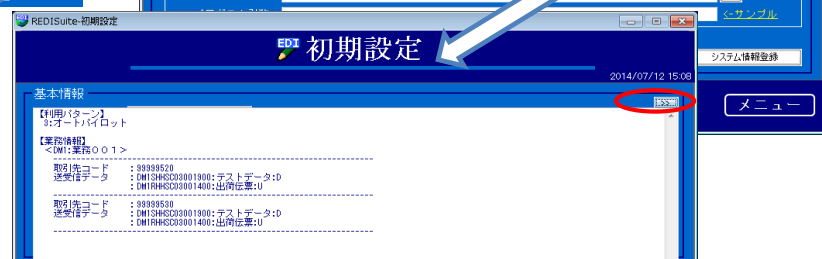
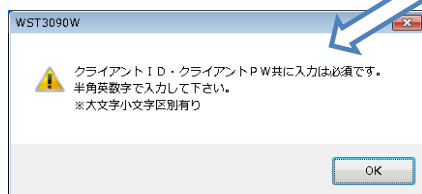
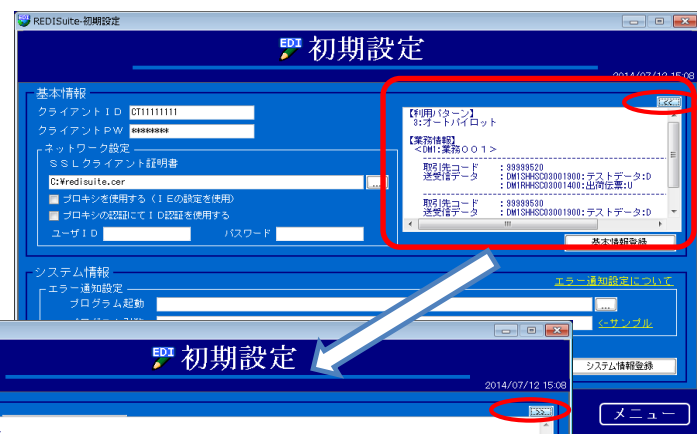
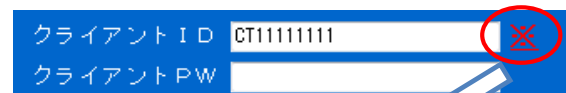
※クライアントID、クライアントPWは大文字小文字を区別しますので、登録通知書通りに入力します。クライアントPWに入力した値は全て「*」で表示されます。

(5) 「基本情報登録」をクリックします。



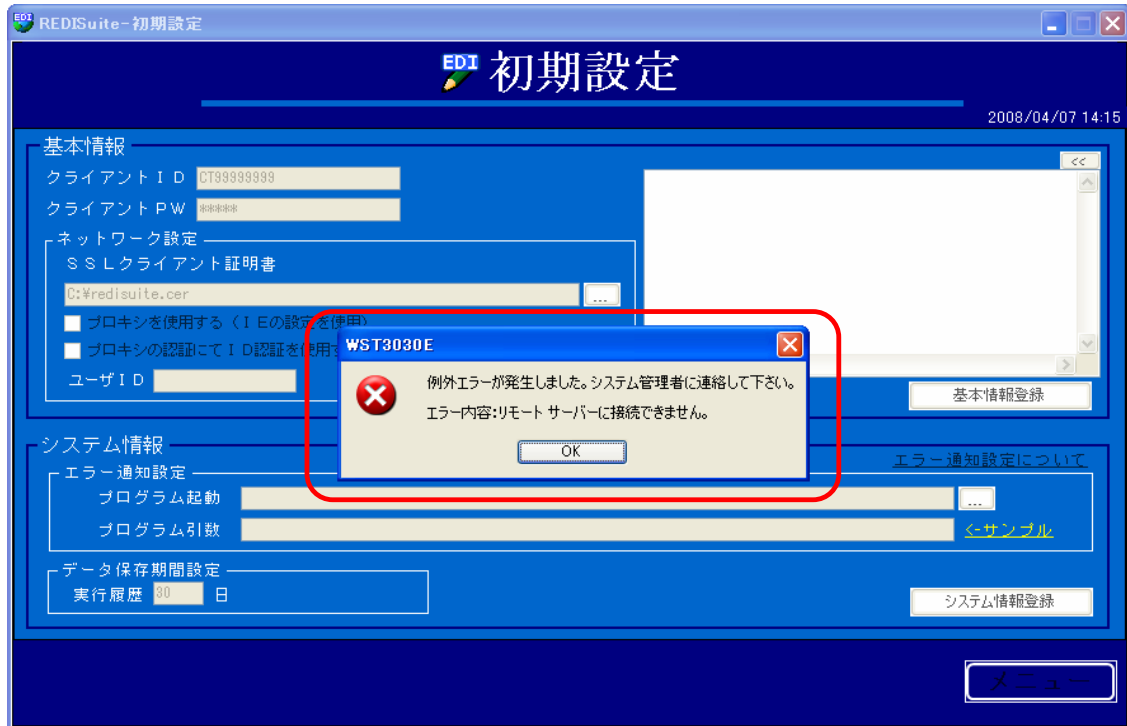
(6) 登録が完了し、登録された情報が表示されます。「<<<」をクリックすると拡大して表示されます。戻る時は「>>>」をクリックしてください。

※入力内容にエラーがある場合は、「※」印が表示されます。クリックするとエラー内容が表示されますので、正しく修正してください。



<<プロキシの設定について>>

「基本情報登録」ボタンをクリックした後に、以下のエラーとなる場合があります。



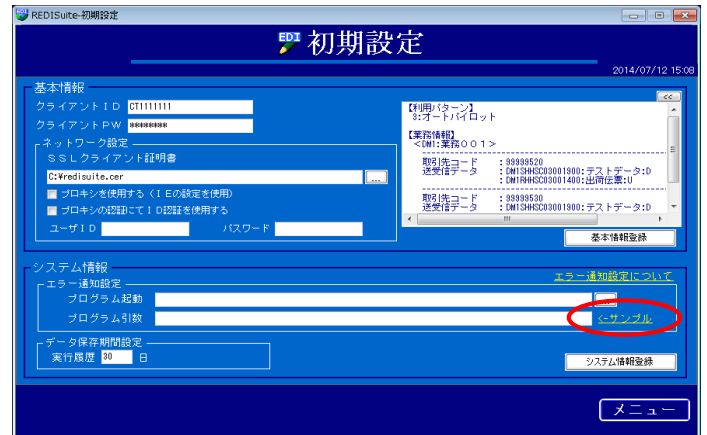
当メッセージは、ネットワークに接続できない場合に表示されます。

入力した内容に誤りが無い場合、お客様のネットワーク環境にプロキシが設定されている可能性があります。
プロキシの設定方法については、補足1をご確認下さい。

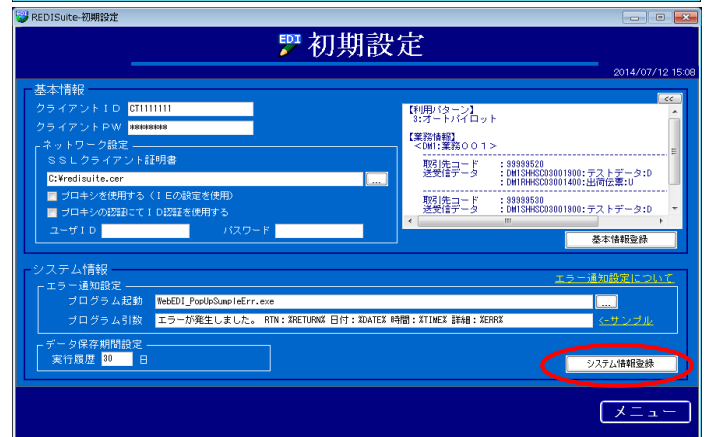
【5-3 システム情報登録】

クライアントツール実行時のエラー通知設定を行います。
 設定しない場合、明示的なエラー通知は行われませんので設定する事を推奨いたします。
 ここでは弊社提供の通知ツールを使用したサンプル設定を行う手順を説明いたします。
 サンプル以外で詳細な設定を行う場合は、補足3を参照して下さい。

(1) 「<-サンプル」をクリックします。

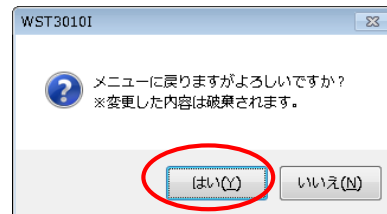


(2) 「システム情報登録」をクリックします。



(3) 「メニュー」をクリックします。
 確認ダイアログが表示されますので
 「はい」をクリックします。

※ 「基本情報登録」または「システム情報登録」
 ボタンをクリックした時点での情報が
 反映されます。



(4) メニュー画面に設定した内容が反映されます。

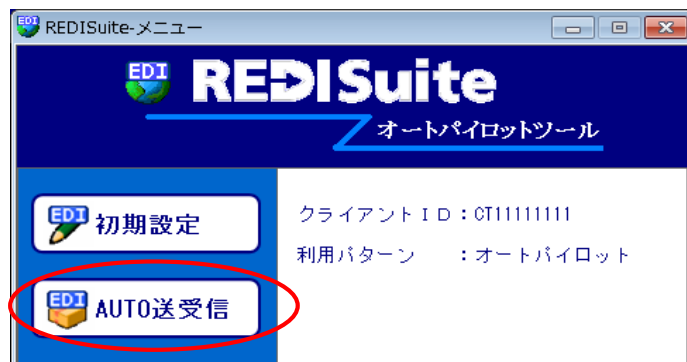


<6. オートパイロット設定>

【6-1 自動送受信スケジュールの設定】

オートパイロットツールを利用して、自動で送受信を行うためのスケジュール設定を行います。スケジュールリングをWindowsのタスクや別のアプリケーションで行う場合は「補足4」を参照して設定してください。ここでは、オートパイロットツールでスケジュールリングを行う場合の設定について説明します。

(1) 「AUTO送受信」をクリックします。



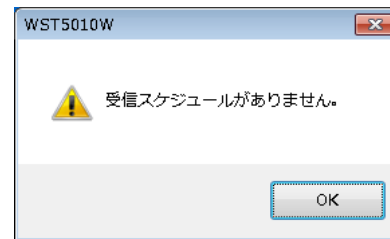
(2) 送受信設定の説明が表示されます。

- **受信設定**
REDISuiteからデータを受信します。
- **送信設定**
REDISuiteへデータを送信します。
- **臨時実行**
受信、送信設定で登録してあるスケジュールを手動で実行できます。
※実行方法、実行時の注意事項は「補足5」を参照してください。



【6-2 受信スケジュール設定】

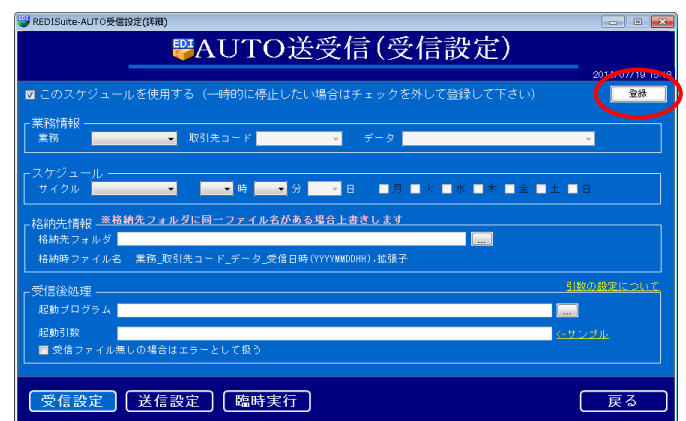
- (1) 「受信設定」をクリックします。
初回の場合、「受信スケジュールがありません」と表示されますので「OK」をクリックします。



- (2) 「追加」をクリックします。



- (3) 受信スケジュール設定画面が開きます。
【受信設定】を参照し各項目を入力します。
入力完了したら「登録」ボタンをクリックします。



【受信設定】

REDISuite-AUTO 受信設定(詳細)

AUTO送受信 (受信設定)

2014/07/19 15:18

このスケジュールを使用する (一時的に停止したい場合はチェックを外して登録して下さい) 登録

業務情報

業務 取引先コード データ

スケジュール

サイクル 時 分 日 月 火 水 木 金 土 日

格納先情報 ※格納先フォルダに同一ファイル名がある場合上書きします

格納先フォルダ

格納時ファイル名 業務_取引先コード_データ_受信日時(YYYYMMDDHH).拡張子

受信後処理 [引数の設定について](#)

起動プログラム

起動引数 [←サンプル](#)

受信ファイル無しの場合はエラーとして扱う

受信設定 送信設定 臨時実行 戻る

分類	項目名	入力内容
業務情報	業務	接続先を設定します。
	取引先コード	受信に利用する取引先コードを設定します。
	データ	受信するデータを設定します。
スケジュール	サイクル	1日1回/曜日指定/日付指定/末日指定から設定します。
	時・分	受信を行う時刻を設定します。(※1)
	日	「日付指定」の場合、日付を設定します。
	曜日	「曜日指定」の場合、曜日を設定します。
格納先情報	格納先フォルダ	受信したデータを保存するフォルダを設定します。
	格納ファイル名	受信したファイルは以下のファイル名で格納されます。 業務_取引先コード_データ_スケジュール時分+拡張子 例) 1日1回 00時01分に受信するスケジュールの場合 XXX_123456_XXSRORDER09000_201407190001.txt
受信後処理	起動プログラム	受信後に、任意のプログラムを起動することができます。 引数情報は「引数の設定について」をクリックすると参照可能です。
	起動引数	起動プログラムに指定する引数を設定します。
	ファイル無しエラー	チェック有り：受信ファイルが無かった場合、エラーとして処理を終了します。 エラー通知設定で設定したエラー通知が行われます。 チェック無し：受信ファイルが無かった場合、正常終了として扱います。

※1：同一の時・分で複数のスケジュール登録は行えません。

※スケジュールの登録のみを行い、実際に実行しない場合は、上部の「このスケジュールを利用する」のチェックを外してください。初期値はチェックが入った状態になっています。

※入力内容にエラーがある場合は、「※」印が表示されます。クリックするとエラー内容が表示されますので、正しく修正してください。

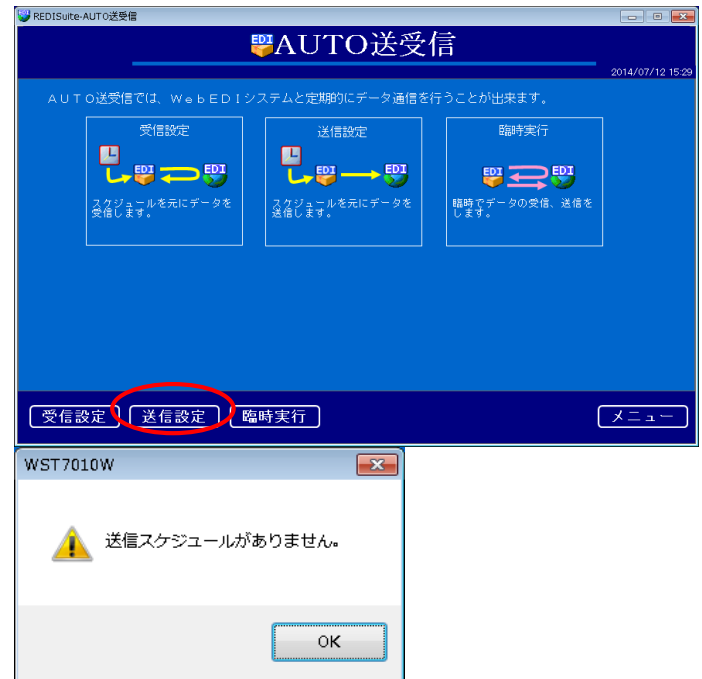
(4) 受信スケジュールが登録され一覧で表示されます。

変更、削除やコピーして新しいスケジュールを作成する場合は、本画面から該当のボタンをクリックしてください。



【6-3 送信スケジュール設定】

- (1) 「送信設定」をクリックします。
初回の場合、「送信スケジュールがありません」と表示されますので「OK」をクリックします。



- (2) 「追加」をクリックします。



- (3) 送信スケジュール設定画面が開きます。
【送信設定】を参照し各項目を入力します。
入力完了したら「登録」ボタンをクリックします。



【送信設定】

分類	項目名	入力内容
業務情報	業務	接続先を設定します。
	取引先コード	送信に利用する取引先コードを設定します。
	データ	送信するデータを設定します。
スケジュール	サイクル	1日1回/曜日指定/日付指定/末日指定から設定します。
	時・分	受信を行う時刻を設定します。(※1)
	日	「日付指定」の場合、日付を設定します。
	曜日	「曜日指定」の場合、曜日を設定します。
送信ファイル情報	フォルダ	送信ファイルを格納するフォルダを設定します。
	ファイル名	送信ファイルのファイル名を設定します。
送信後処理	起動プログラム	送信後に、任意のプログラムを起動することができます。引数情報は「引数の設定について」をクリックすると参照可能です。
	起動引数	起動プログラムに指定する引数を設定します。
	ファイル無しエラー	チェック有り：送信ファイルが無かった場合、エラーとして処理を終了します。 エラー通知設定で設定したエラー通知が行われます。 チェック無し：送信ファイルが無かった場合、正常終了として扱います。(何も送信されません)
	ファイル削除	チェック有り：送信後に送信元ファイルを削除します。 チェック無し：送信後にファイルは残ったままになります ※同一のファイル名を指定し、複数のスケジュールを設定しますと、重複送信の恐れがありますので、チェック有りの設定を推奨しております。

※1：同一の時・分で複数のスケジュール登録は行えません。

※スケジュールの登録のみを行い、実際に実行しない場合は、上部の「このスケジュールを利用する」のチェックを外してください。初期値はチェックが入った状態になっています。

※入力内容にエラーがある場合は、「※」印が表示されます。クリックするとエラー内容が表示されますので、正しく修正してください。

(4) 受信スケジュールが登録され一覧で表示されます。

変更、削除やコピーして新しいスケジュールを作成する場合は、本画面から該当のボタンをクリックしてください。



<7. パイロット起動・停止>

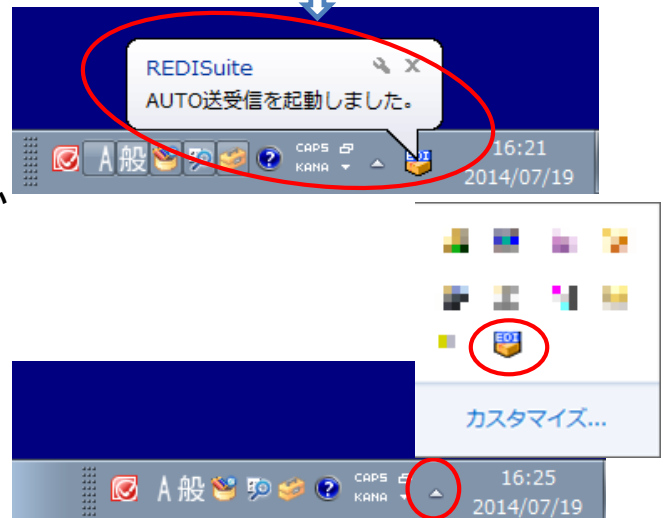
設定したスケジュールでデータの送受信を自動で行う場合、パイロットを起動していただきます。起動する方法は、画面からの起動とコマンドでの起動の2パターンが可能です。

【7-1 画面からの起動・停止】

- (1) メニュー画面にある「開始」をクリックします。



- (2) デスクトップ画面の右下タスクトレイにツールのアイコンが表示されます。「AUTO送受信を起動しました。」の表示はしばらくたつと消えます。

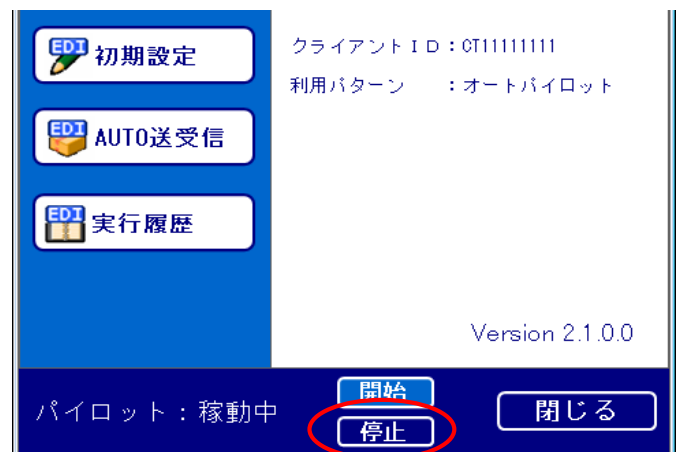


※ツールが動いているかどうかはタスクトレイにこのアイコンが表示されているかどうかで確認いただけます。

※PCの設定によっては一定時間経つとタスクトレイに常駐するプログラムが非表示になります。その場合は、タスクトレイの「△」をクリックすると確認できます。

- (3) 停止する場合は、メニュー画面で「停止」をクリックします。実行中の処理があった場合は、処理完了後に正常終了されます。

または、タスクトレイのアイコンを右クリックし「強制終了」を選択しても停止可能です。※この場合、実行中の処理があっても強制的にツールを終了しますので、送受信が実行されていない事を確認した上で実施して下さい。送受信が実行中の時に強制終了した場合、処理途中で中断されている可能性があります。



【7-2 コマンドでの起動・停止】

コマンドでの起動・停止を行う場合は、基本的にWindowsで動作するDOSコマンドを利用いただきます。
ご利用の端末、Windowsのバージョンまたはご利用のセキュリティソフトなどの相性などで必ずしも本マニュアル記載の内容で動作するとは限りませんのであらかじめご了承ください。

(1) 起動する場合、以下のexeを直接起動してください。

C:¥Program Files¥REDSuite¥WebEDI_DataPilot.exe

※カレントフォルダがプログラムインストールフォルダでないと正常に動作しませんので必ずカレントフォルダにインストールフォルダを指定してください。

例)

```
cd "C:¥Program Files¥REDSuite"  
"C:¥Program Files¥REDSuite¥WebEDI_DataPilotTask.exe" D XXX 123456 XXXTESTORD009000 "C:¥temp¥rcv.txt"
```

(2) 停止する場合、以下のいずれかで停止させてください。

【正常に停止させる場合】

C:¥Program Files¥REDSuiteフォルダ内に「StopPilot.txt」という名称の空ファイルを作成してください。
正常に停止されると、「StopPilot.txt」が削除されます。

「StopPilot.txt」の作成は、空ファイルを事前に別フォルダに作成しておき、コマンドでコピーする方法か、Windows7端末の場合は以下コマンドでも作成できます。

type nul > "C:¥Program Files¥REDSuite¥StopPilot.txt"

【強制終了させる場合】

「WebEDI_DataPilot.exe」のプロセスを停止させてください。

Windows7端末の場合「taskkill」をご利用いただく事でプロセスの停止を行う事ができます。コマンドの詳細はWindows標準のコマンドリファレンスを参照ください。

※この停止方法の場合、実行中の処理があっても強制的にツールを終了しますので、送受信が実行されていない事を確認した上で実施して下さい。
送受信が実行中の時に強制終了した場合、処理途中で中断されている可能性があります。
データが伝送中だった場合、途中まで送受信できてしまい、データの不整合が発生する可能性があります。

<補足1. ネットワーク補足設定>
【補足1-1 プロキシ設定】

お客様のネットワーク環境にプロキシが設定されている場合に設定します。
ネットワーク環境についてはお客様のネットワーク管理者にお問合せ下さい。

(1)入力要領に従い、入力してください。

The screenshot shows the 'REDISuite-初期設定' window. The '基本情報' (Basic Information) section includes fields for Client ID (CT11111111), Client PW, and SSL Client Certificate (C:\redisuite.cer). The 'ネットワーク設定' (Network Settings) section has two checked options: 'プロキシを使用する (IEの設定を使用)' and 'プロキシの認証にてID認証を使用する'. Below these are fields for Proxy User ID (XXXXXXXXXX) and Password (*****). The 'システム情報' (System Information) section includes 'エラー通知設定' (Error Notification Settings) with fields for program start and end, and 'データ保存期間設定' (Data Retention Settings) with a field for execution history (30 days). A 'メニュー' (Menu) button is at the bottom right.

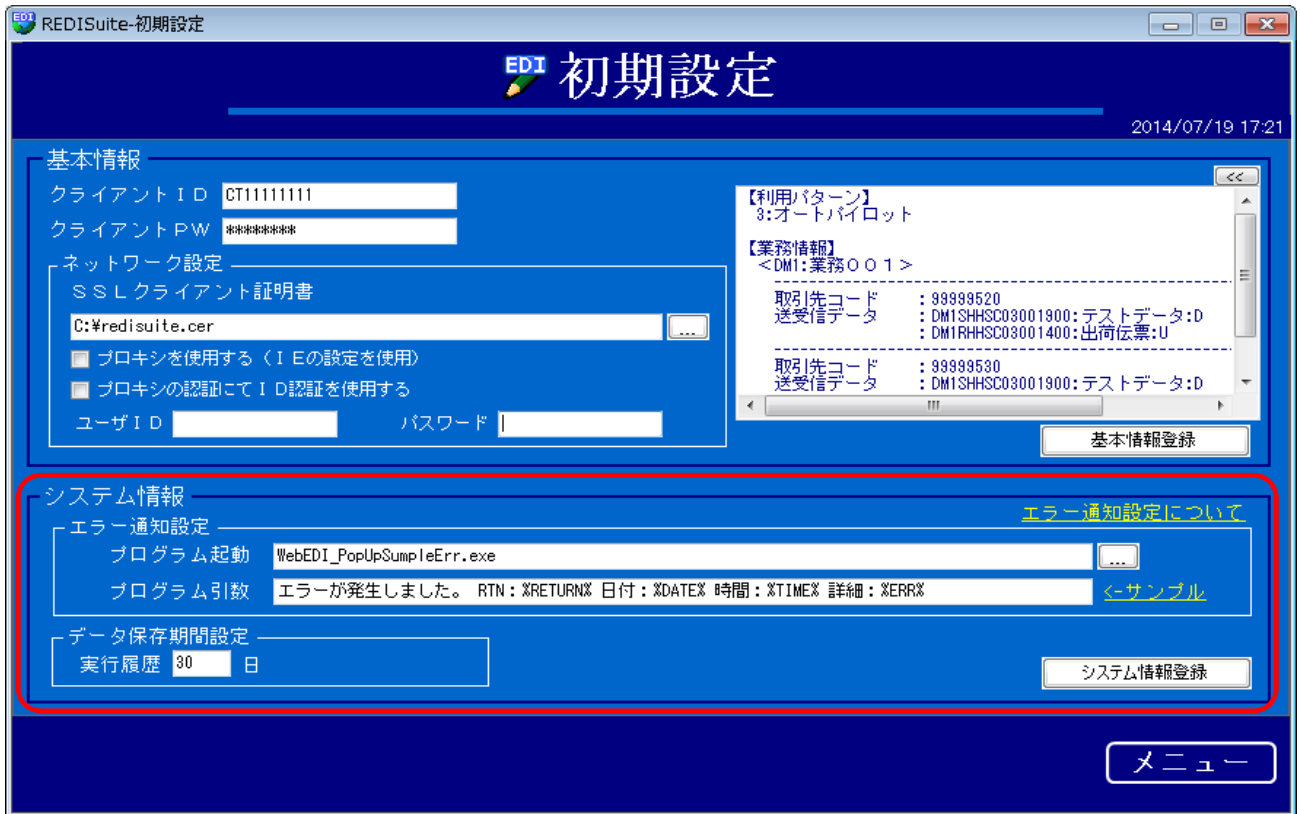
項目名	入力内容
プロキシを利用する (IEの設定を使用)	インターネット接続の際に、プロキシサーバを経由している場合はチェックを入れてください。
プロキシの認証にてID認証を使用する	プロキシサーバでのID/パスワード認証を利用している場合はチェックを入れてください。
ユーザID	プロキシ認証のユーザIDを入力してください。
パスワード	プロキシ認証のパスワードを入力してください。 ※入力した値は全て「*」で表示されます。

(2)入力が完了したら、「基本情報登録」ボタンをクリックします。

<補足2. システム情報補足設定>
 【補足2-1 システム情報登録】

パイロットの実行時に、例外エラーが発生した場合のエラー通知方式を指定します。
 設定は必須ではありませんが、システム情報を登録しない場合、例外エラー情報はイベントログのみに通知されます。

(1) 入力要領に従い、入力してください。



分類	項目名	入力内容
エラー通知設定	プログラム起動	エラー発生時に起動したいプログラムを指定します。 起動プログラムに指定する引数を設定します。
	プログラム引数	引数情報は「引数の設定について」をクリックすると参照可能です。
データ保存期間設定	実行履歴	実行履歴（ログ）の保存期間を設定します。 7～180日の間で変更が可能です。

※「<-サンプル」をクリックすることにより、本システムに付属する通知ツールを起動する設定を行うことが可能です。

サンプルツール	実行イメージ	
WebEDI_PopUpSumpLe.exe		
実行例		
引数		
%RETURN%		リターンコードが入ります。(エラー=16)
%DATE%		エラー発生時の年月日が入ります。(例: "20130515")
%TIME%		エラー発生時の時刻が入ります。(例: "1325")
%ERR%		エラー時の内容が表示されます。 (例: "処理が異常終了しました。") ※****%は、必ず「」（ダブルクォート）」で囲まれます。

(2) 入力完了したら、「システム情報登録」ボタンをクリックします。

<補足3. 送受信の臨時実行について>

【補足3-1 臨時実行起動】

臨時実行とは、エラー発生やイレギュラスケジュールでの送受信が発生した場合などに、手動で送受信を実行する時に利用します。
 臨時実行は、パイロットが起動していると行えませんので、<7. パイロット起動・停止>を参照して一時的にパイロットを停止させてください。

- (1) AUTO送受信画面で「臨時実行」をクリックします。



- (2) 上段に受信スケジュール、下段に送信スケジュールが一覧表示されますので、臨時で実行したいスケジュールを指定し「受信」または「送信」ボタンをクリックしてください。



- (3) 送受信が完了したら、再度パイロットを起動させてください。

※臨時実行の実施直後はパイロットが止まっています。
 通常は自動で送受信を行っている場合は、必ず起動してください。

<補足4. コマンドでの送受信>

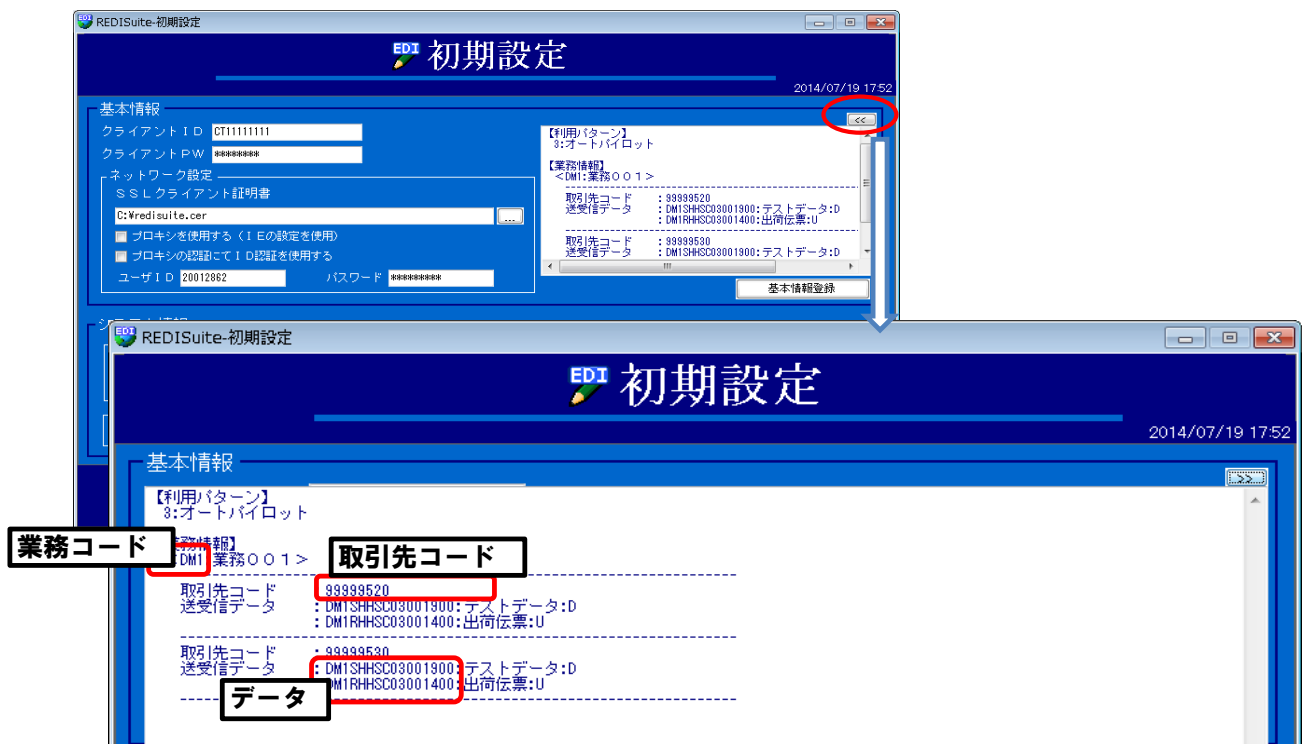
スケジューリングをWindowsのタスクや別のアプリケーションで行う場合は、スケジューラーより送受信ツールを利用した送受信コマンドを直接起動してください。

送受信ツール： C:\Program Files\REDISuite\WebEDI_DataPilotTask.exe

WebEDI_DataPilotTask.exe [送受信区分 | 業務コード | 取引先コード | データ識別子 | 送受信ファイルパス]

引数	設定内容
送受信区分	"D": 受信 "U": 送信
業務コード	業務コード3桁を指定します。(例: DM1)
取引先コード	取引先コードを指定します。(例: 99999999)
データ	データを表すコードを指定します。(例: AAAAAAAAAA00001)
ファイルパス	受信の場合: 受信したファイルを格納するパスを指定します。 送信の場合: 送信するファイルを確認するパスを指定します。

※業務コード、取引先コード、データは、初期設定画面にて確認することが出来ます。



【コマンドサンプル】

C:\Program Files\REDISuite\WebEDI_DataPilotTask.exe△D△DM1△99999999△AAAAAAAAAAAA00001△c:¥Temp¥Order.txt

【戻り値】

戻り値	意味
0	正常終了
8	対象ファイル無し
16	エラー

※実行結果詳細は、ツールの実行履歴画面にて確認して下さい。